

情報かわら版

「第1回授業研究会」を開催しました。

川崎市立小学校情報教育研究会
会長 石堂 真理子（住吉小学校）
平成23年7月 No. 3
担当 平小学校 田中 啓介

3年 ローマ字

7月6日、今年最初の授業研究会を下平間小学校（授業者：中田 優夏教諭）で開催しました。

今回、取り上げた教科・単元は国語科の「ローマ字」。学習指導要領でも、指導学年が4年生から3年生に変更になった単元です。



私たち情報教育研究会では、これからの社会を生きる子どもたちには、学習指導要領に書かれている、ローマ字を「書く力」「読む力」に合わせて「(キーボードで) 打つ力」も必要ではないだろうかという立場で、今回の授業に取り組みました。子どもたちが様々な学習活動の中で、ローマ字入力を使って文字を打つことがほとんどだと考えているからです。もちろん子どもたちが大人になるころには、もっと優れた入力方法が一般的になるかもしれません。しかし、子どもたちがローマ字入力で学んだ、情報の集め方やまとめ方、発信の仕方などは、入力方法が変わろうとも、しっかりと身につけているはずだと考えているのです。

さて、当日は子どもたちが手書きで「ローマ字しりとり」をするところから始まりました。子どもたちがグループの仲間と協力しながら、書いたり読み上げたりと、とても楽しい雰囲気の中で授業がスタートしました。しばらくすると、何人かのカードを50インチ大型テレビで映し出し、クラス全体で読むという活動を行いました。

さらに今回は子どもたちがキーボード入力にチャレンジする活動があり、コンピュータの画面と子どもたちの手元を映すために2台の50インチ大型テレビを使うという試みも取り入れてみました。子どもたち同士でつづり方やキーの位置を教え合いながら入力すると、コンピュータの画面には、たくさんの画像が現れ、そのたびに大きな歓声が上がっていました。



協議会は、グループごとに分かれて話し合いをしました。今回のような新しいローマ字の指導の在り方について、たくさんの参観者が熱心に語り合い、大いに盛り上がった協議会となりました。

※今回の指導案は、[情報研 web サイト](#)に掲載してあります。ぜひご一読ください。

■ 指導講評 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター 樋口 彰 指導主事

樋口指導主事には「21世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿」という観点から、お話をいただきました。また、参観者がどのようなことを学ぶかが大切であるということやローマ字がローマ字入力だけではなく、新聞・ポスター作りなどにもどんどん活用して子どもたちの日常生活を豊かにするということについてもご指導いただきました。